

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	漆畑 俊晴
2. 審査委員	主査：連大教授（兵庫教育大学）福田 喜彦 副主査：連大教授（岡山大学） 山田 秀和 委員：連大教授（上越教育大学）志村 喬 委員：連大教授（上越教育大学）茨木 智志 委員：連大教授（兵庫教育大学）山内 敏男
3. 論文題目	社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承 —長岡文雄の実践記録の分析による事例研究—
4. 審査結果の要旨	<p>教科教育実践学専攻社会系教育連合講座 漆畑 俊晴 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和8年2月1日（日） 17時00分～18時00分 場所：Zoomによるオンライン開催</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>序章 研究の目的と意義</p> <p>第Ⅰ部 社会科授業における教師の専門的能力の解明方法</p> <p>第1章 社会科教育学における教師研究の展開と課題</p> <p>第2章 専門的能力の解明に向けた教師の実践記録の分析：長岡文雄の教育実践への着目</p> <p>第3章 授業における教師の専門的能力と形成の分析枠組み： システマティックレビューによる実証研究の整理と統合</p> <p>第Ⅱ部 社会科授業における教師の専門的能力と形成の実態</p> <p>第4章 社会科授業における教師の授業実践知の特徴と形成</p> <p>第5章 社会科授業における教師の実践的知識の特徴と形成</p> <p>第6章 社会科授業における教師の信念の特徴と形成</p> <p>第Ⅲ部 社会科授業における教師の専門的能力の継承</p> <p>第7章 社会科教員養成における専門的能力の伝承</p> <p>第8章 社会科授業の観察と分析による専門的能力の学習</p> <p>第9章 社会科授業における教師の専門的能力の継承に向けた展望</p> <p>終章 研究の成果と課題</p>

学位論文の概要は、以下の通りである。

本研究では、社会科授業における教師の専門的能力に関する従来の研究の課題を明らかにし、それを乗り越える研究方法と対象を検討している。そのため、社会科授業における教師の専門的能力の構造と形成の実態を事例から実証的に考察し、解明された熟達教師の専門的能力を後進の教師たちが継承していった方途を明らかにし、熟達教師の専門的能力を継承していくための展望を示している。

本論は、第Ⅰ部の「社会科授業における教師の専門的能力の解明方法」、第Ⅱ部の「社会科授業における教師の専門的能力と形成の実態」、第Ⅲ部の「社会科授業における教師の専門的能力の継承」で構成されている。第Ⅰ部から第Ⅲ部まで各3章で構成されている。

第Ⅰ部では、社会科授業における教師の専門的能力の解明方法を示している。

第1章では、社会科教育学の研究成果を概観し、研究史において教師教育研究への注目が高まっている理由や教師教育研究の分類を明らかにし、社会科教師の専門性の解明を目指す教師研究の展開とその課題について検討している。

第2章では、教師の実践記録の特徴や実践記録が用いられるようになった歴史的な経緯から実践記録の分析の方法による教師の専門的能力の解明の可能性を検討している。

第3章では、システマティックレビューの方法を用いて、授業における教師の専門的能力に関して日本の教師を対象として行われてきた先行研究の内容の整理と統合を試み、教師の専門的能力の構造と形成を分析するための枠組みを検討している。

第Ⅱ部では、社会科授業における教師の専門的能力の構造と形成の実態の解明方法を示している。

第4章では、授業実践知の特徴を授業中の思考と行為の関連性から分析し、その形成要因を予想外の子どもの状況に直面した単元の構想と実際を比較することから解明している。

第5章では、実践的知識の特徴を個別の授業論の整理による特徴の抽出と同一題材の単元構想への表出から分析し、その形成要因を長岡の単元構想の変容と構想を行う際の思考過程から解明している。

第6章では、信念の特徴を子どもの日記に対する長岡の言説の分類と変容から分析し、その形成要因をライフイベントとの関連から解明している。

第Ⅲ部では、社会科授業における教師の専門的能力の継承について明らかにしている。

第7章では、長岡が実務家教員として行った社会科教員養成の特徴を、社会科教育学のテキストの比較から抽出し、文化実践の形態を3つの視点に整理することによって、専門的能力の伝承について検討している。

第8章では、長岡の社会科授業の分析や観察を行なった経験をもつ4名の教師たちに対するインタビュー調査を行い、長岡の専門的能力に関する学習についての語りの特徴をコーディングすることによって、専門的能力の学習について検討している。

第9章では、ここまで長岡を事例として明らかになってきた知見を整理し、社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承についてモデルを提起することによって、専門的能力の継承の方向性について展望を論じている。

これまで論じてきた第Ⅰ部から第Ⅲ部での論証を踏まえて、最後に、終章では、本研究の成果と課題をまとめている。

2. 審査経過

本審査委員会の審査委員は、提出された学位論文を精読したのち、令和8年2月1日にZoomによるオンラインで公聴会を実施した。そのあと公聴会に引き続き、審査委員により、同じくZoomによるオンラインで、学位論文の審査と最終試験を行った。

(1) 論文の独創性

本研究の独創性は、社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承を、事例とした長岡文雄の実践記録をもとにして包括的に解明した点である。従来の社会科教師研究が、授業を構想する際に教師が発揮している専門性の追究に焦点化してきたのに対し、長岡の信念、実践的知識、授業実践知の実態を、それぞれ異なる性格の実践記録をもとに解明し、包括的な把握を行なった。また、教師の主體的な授業やカリキュラムの開発の背景にある専門的能力の形成には、日常的な教育実践における子どもからの学びが契機としてあることを実証的に示してきた。さらに、この専門的能力が社会科教員養成を通じて伝承され、後進の教師たちに学習された実態を解明したことは、世代交代が進行する中で社会科教師の専門的能力を継承していくための方略を示したと言えることを論証したことが独創性のあるものとして評価された。

(2) 本研究の発展性

本研究の発展性は、社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承に関するモデルを提起し、専門的能力の継承していくための展望を示した点である。本研究では、社会科教師研究において錯綜してきた専門的能力に関する概念を整理し、教師の「信念」「実践的知識」「授業実践知」の三層構造で社会科授業における教師の専門的能力の特徴を示してきた。それによって、専門的能力の分析方法、構成要素と特徴、形成要因、伝承と学習の方略についてモデルを示したことは、社会科授業における教師の専門的能力の更なる解明を進めていくための基盤となる知見を提起していることが発展性のあるものとして評価された。

(3) 学校教育実践への貢献

本研究の学校教育実践への貢献は、社会科授業における教師の専門的能力の研究手法として実践記録の分析によるアプローチの有効性を示した点が挙げられる。従来の社会科教師教育研究の方法論的な課題を克服する方法として、本研究が提起した実践記録の分析によるアプローチの有効性を、長岡という具体的な事例の分析を通して検証した。この方法を援用することは、近年の教師の人口構成の変化といった課題に対し、教師の専門的能力の継承を促して教員文化を維持することのみならず、過去や現在の実践者の取り組みを再構成して、教員文化の更なる発展を目指すものにもつながりうるものが学校教育実践への貢献があるものとして評価された。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、漆畑 俊晴 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。